

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 56107338
PUBLICATION DATE : 26-08-81

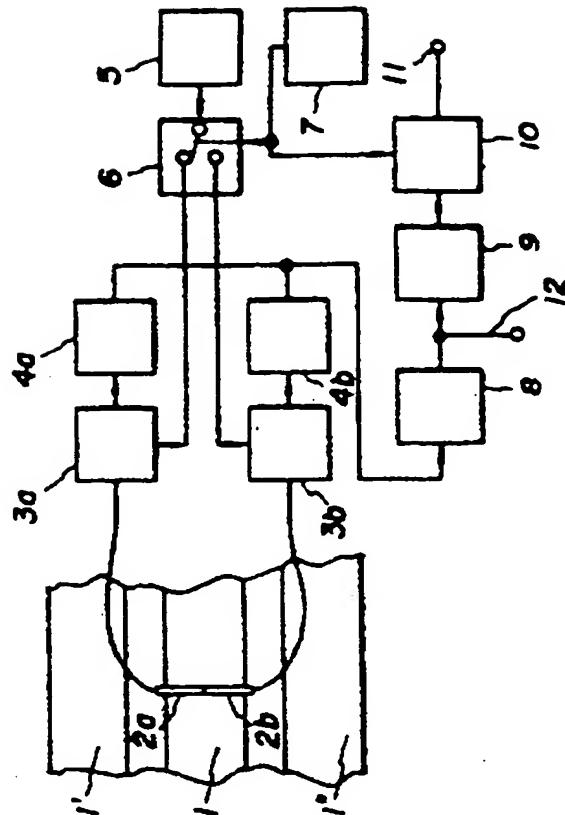
APPLICATION DATE : 29-01-80
APPLICATION NUMBER : 55008340

APPLICANT : HITACHI LTD;

INVENTOR : YAMASHITA KYO;

INT.CL. : G11B 11/00 G11B 21/10

TITLE : DETECTOR FOR TRACKING ERROR



ABSTRACT : PURPOSE: To simplify the constitution of pickup part, to play back the video signal with high quality, and to ensure to detect the tracking error signal, by making the pickup of signal from two electrodes in time sharing mode.

CONSTITUTION: Electrodes 2a, 2b have static capacity with the conductive layer forming the recording track 1, and this static capacity forms a part of resonators 3a, 3b. Thus, when a high-frequency exciting voltage from the oscillator 5 is fed to each resonator 3 via a switching circuit 6, AM modulation in response to the recording signal of track 1 is made, amplitude variance is picked up at envelope detectors 4a, 4b and recorded FM modulation signal is obtained. This signal is amplified 8 and TV signal is fed to the terminal 12, and a signal in proportion to the amplitude is detected at an envelope detector 9 and fed to the synchronizing detector 10, to obtain tracking error signal at the terminal 11.

COPYRIGHT: (C)1981,JPO&Japio

⑬ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 昭56-107338

⑬ Int. Cl.³
G 11 B 11/00
21/10

識別記号 廷内整理番号
7426-5D
7168-5D

⑭ 公開 昭和56年(1981)8月26日
発明の数 1
査定請求 未請求

(全 4 頁)

⑮ トランシーバー誤差検出装置

⑯ 特 願 昭55-8340
⑰ 出 願 昭55(1980)1月29日
⑱ 発明者 藤島徹

横浜市戸塚区吉田町292番地株
式会社日立製作所家電研究所内

⑲ 発明者 山下経

横浜市戸塚区吉田町292番地株
式会社日立製作所家電研究所内

⑳ 出願人 株式会社日立製作所
東京都千代田区丸の内1丁目5
番1号

㉑ 代理人 弁理士 武頭次郎 外1名

明 誌 書

1. 発明の名称

トランシーバー誤差検出装置

2. 特許請求の範囲

(1) 記録トランクの搬送方向に位置を異にして設けた第1と第2の信号検知用電極を有する音電容変換方式の記録再生装置において、これら第1と第2の電極に結合した共振器のそれぞれに対する高周波駆動電圧を交互に切換えて供給する切替手段と、これら共振器のそれぞれにより振幅変調されて取り出された高周波駆動電圧の振幅を検出する第1と第2の検波手段と、これら第1と第2の検波手段の出力を共通の入力とする1個の地線手段と、該地線手段の出力を入力として前記切替手段に対する切換信号により動作する同期检波手段を有し、該同期检波手段の出力によりトランシーバー制御用の誤差信号を得るよう構成したことを特徴とするトランシーバー誤差検出装置。

(2) 特許請求の範囲第1項において、前記記録再生装置がビデオディスクプレナーであり、かつ前記第1と第2の電極が記録トランク上における1水平走査期間に相当する距離だけ離れた位置に第3の信号検知用電極を有し、映像信号の取り出しと分離してトランシーバー誤差検出信号の取り出しが行なわれるよう構成したことを特徴とするトランシーバー誤差検出装置。

1
2
第1と第2の電極により記録トランクから再生した信号に基づいて映像信号を得ると共にトランシーバー誤差検出信号も得るように構成したことを特徴とするトランシーバー誤差検出装置。

(3) 特許請求の範囲第1項において、前記記録再生装置がビデオディスクプレナーであり、かつ前記第1と第2の電極が記録トランク上における1水平走査期間に相当する距離だけ離れた位置に第3の信号検知用電極を有し、映像信号の取り出しと分離してトランシーバー誤差検出信号の取り出しが行なわれるよう構成したことを特徴とするトランシーバー誤差検出装置。

(4) 特許請求の範囲第1項において、前記記録再生装置がビデオディスクプレナーであり、かつ前記第1と第2の電極が記録トランク上における1水平走査期間に相当する距離だけ離れた位置に第3の信号検知用電極を有し、映像信号の取り出しと分離してトランシーバー誤差検出信号の取り出しが行なわれるよう構成したことを特徴とするトランシーバー誤差検出装置。

るトランシング誤差検出装置。

3 発明の詳細な説明

本発明は、ビデオディスクプレナーなどにおけるトランシング制御用のトランシング誤差検出装置に関するものである。

テレビジョン信号などの画像情報を記録し再生するための装置としては、従来ビデオテープレコーダーが主として使用されていたが、再生専用のビデオプレナーとしては、その取扱いの容易さやプログラムが記録された記録媒体、いわゆるプログラムソフトの経済性などから回転円板にテレビジョン信号を記録し再生するようにした。いわゆるビデオディスクプレナーが使用されるようになつてきただ。

このようなビデオディスクプレナーとしては、種々の方式のものが提案されているが、その中の一つに記録すべき信号をビデオディスクの表面に設けた導電層の凹凸変化として記録し、再生時に針電極でトレースしたときに生じるディスクの導電部と電極との間の静電容量の変化として信号を

特開昭56-107338(2)

検知し再生する方式のいわゆる静電容量変換方式のビデオディスクプレナーがある。

また、この静電容量変換方式のビデオディスクプレナーにおいても、ディスク面の記録トランクに対する針電極のトランシングを行なうための方法として種々のものが提案されているが、その中で針電極から再生された信号の振幅レベルによりトランシング誤差を検出する方式のビデオディスクプレナーが知られているが、この方式ではトランシング外れの大きさは再生された信号の振幅レベルから直接検出できるが、その外れの方向は再生された信号の振幅レベルからは直接判別できないから、それを検出するための手段が必要であり、そのため、記録トランクの長さ方向と直角な方向、即ち電極によるトレース方向と直角な方向に2個の電極を設け、トランシング外れの方向によりこれら2個の電極から得られる信号にレベル差を生じるようにし、このとき、いずれの電極からの信号のレベルが高くなつたか(或いは低くなつたか)でトランシング外れの方向を検出するようとした。

方式のものが提案されている(このような方式の一例としては、例えば特開昭52-104907号公報に記載されたものがある)。

ところが、このようなトランシング誤差検出方法では、2個の電極に対応して2系統の信号検出手段が必要となるため、構成が複雑であり、特に映像信号用の前置增幅器が2個用いられるため針電極を設けたピックアップ部の構成が複雑化し、大型化してしまうという欠点があつた。

本発明の目的は上記した従来技術の欠点を除き、前置增幅器を複数個使用しないでトランシング誤差の検出を可能にし、ピックアップ部の構成を簡単かつ小型のものとすることができるトランシング誤差検出装置を提供するにある。

この目的を達成するため、本発明は、2個の電極からの信号の取り出しを時分割で交互に行なうようにした点を特徴とする。

以下、本発明によるトランシング誤差検出方法の実施図を図面の第1図ないし第3図について説明する。

第1図は本発明の第1の実施例で、1, 1' 1''はビデオディスクに形成され元記録トランク、2a, 2bは第1と第2の信号検出用電極、3a, 3bは共振器、4a, 4bは包絡解波器、5は高周波発振器、6は切換回路、7は切換信号発生器、8は前置増幅器、9は包絡解波器、10は同期解波器、11はトランシング誤差信号出力端子、12は映像信号出力端子である。

次に動作について説明する。

電極2a, 2bは記録トランク1を形成している導電層との間に静電容量を有し、この静電容量が共振器3a, 3bの共振容量の一端となつてゐる。従つて切換回路6を介して共振器5からの高周波駆動電圧が共振器3a, 3bに供給されると、記録トランク1に記録されている信号に応じて高周波駆動電圧がA.M.変調されて包絡解波器4a, 4bに取り出される。このときの高周波駆動電圧の周波数としては、例えば900MHz程度のものが使用されている。

包絡解波器4a, 4bはこのA.M.変調された

高周波励振電圧を挿入し、その振幅変化分を取り出す。記録トラック1、1'、1''にはFM変調したテレビジョン信号などが記録されているから、検波器4a、4bの出力には、このFM変調された信号がそのまま得られることになる。

そこで、これら包絡線検波器4a、4bの出力を前置増幅器8で所定のレベルに増幅し、出力端子12から音響処理回路(図示していない)に送れば音響再生を行なわせることができる。

また、前置増幅器8の出力は包絡線検波器9にも供給され、その振幅に比例した出力を得、同期検波器10で処理されてトランシング誤差信号が出力端子11に得られる。

そこで、この出力端子11に得られる信号を電極2a、2bが設けられているピックアップアームのトランシング制御系に供給すれば、正しいトランシングが得られることになる。

ところで、先細器5からの高周波励振電圧は、切換回路6によつて、所定の切換周期で交互に共聴器3aと3bに切換えて供給されている。そし

て、電極2a、2bにより記録トラック1から信号が検出されるのは、共聴器3a、3bに高周波励振電圧が供給されたときだけである。

従つて、包絡線検波器4aと4bの出力には、電極1aと1bによつて記録トラック1から検出されたFM信号が交互に現われていることになり、その交互に現われる周期は切換信号発生回路7による切換信号の周期によつて決められていることになる。

そこで、前置増幅器8の出力を包絡線検波器9に入れてFM信号の振幅変化を表わす信号を取り出し、同期検波器10により切換回路7からの切換信号によつて同期検波すれば、電極2aと2bで検出された信号の振幅レベルに応じた電圧を分離して検出することができるようになる。そして、電極2aと2bから再生される信号の振幅レベルは、それぞれの電極のトランシング状態に応じて反対方向に変化し、例えば、第1図で電極2a、2bによるトランシングが上方に外れたとすれば、電極2aは記録トラック1から外れるが電極2b

は記録トラック1とさらに重なるから、電極2aからの信号の振幅レベルは下り、電極2bからの信号の振幅レベルは上ることになる。

従つて、同期検波器10では電極2aと2bからの信号が分解されれば、これらの信号のレベル差によつてトランシング誤差信号を得ることができ、トランシング制御を行なうことができることになる。

そして、この本発明の実施例によれば、電極2aと2bからの信号の增幅を唯一の前置増幅器8で行なうことができる上、電極2aと2bからの信号の切換えと取り出しを共聴器3aと3bに対する高周波励振電圧の切換えによつて行なつてあるから、電極2a、2bから映像信号の出力端子12までの信号系には何らの切換手段をも設ける必要がなくなり、映像信号に対して無用の歪を与える必要が全くないという利点がある。

第2図は本発明の他の実施例で、第1と第2の電極2a、2bに加えて第3の電極2cを設け、トランシング誤差信号の取り出しと映像信号の取

り出しを独立して行なうようにしたもので、3cは電極2cに対応して設けた共聴器、4cは同じく包絡線検波器、8-1はトランシング誤差信号専用の前置増幅器であり、その他は第1図の場合と同じである。

第3の電極2cに結合した共聴器3cには高周波励振器5からの高周波励振電圧がそのまま供給されるから、電極2cによる記録トラック1からの信号の再生は通常的に行なわれ、出力端子12からはさらに亞の少ない映像信号の取り出しが可能になる。

このとき、前置増幅器8-1はトランシング誤差による振幅レベルの変化だけを忠実に増幅できればよいから、比較的安価のもので済むから、簡単な増幅器で構成することができる上、電極2a、2bもトランシング誤差を振幅レベルの変化として検出するだけであるから、そのトレース方向の寸法を映像信号再生用の場合は小さくする必要がないので製造が簡単に行なえ、寿命も永くなるので、前置増幅器8-1や電極2cを専分に設

けたことによるコストアップは極めて済み、それとひきかえに確実な信号再生を行なわせることができる。

さらに、ビデオディスクに対するテレビジョン信号の記録が等速走査記録方式の場合に、電極 2a, 2b に対する電極 2c の配設距離を記録トラック 1における 1 水平走査期間分の記録長さに等しく定めておけば、電極 2a, 2b から得られる信号と電極 2c から得られる信号との間には 1 水平走査期間に相当した遅れを与えることができるから、ビデオディスクプレイヤーで使用されるドロップアウトキャッシュセル回路などに必要な 1H 遅延信号を直接得ることができ、これらの回路に必要な 1H 遅延回路を不必にできるという利点が得られる。

第 3 図は本発明による他の実施例で、第 1 図に示した実施例における電極 2a, 2b をさらに記録トラック 1 の長さ方向に 1 水平走査期間に相当した距離だけ離して配置したものである。

これにより電極 2a と 2b から再生された信号

特開昭56-107338(4)
12
間には 1 水平走査期間の時間差が与えられることになり、トランシング誤差信号をこれらの電極 2a と 2b により再生された信号の無駄レベルに応じて得ると共に、これらの電極 2a と 2b から 1 水平走査期間の時間差を有する映像信号を得ることができ、第 2 図に示した実施例の場合と同様にドロップアウトキャッシュセル回路などに必要な 1H 遅延回路を省略させることができる。

以上説明したように、本発明によれば、トランシング誤差信号を得るために映像信号用の前置増幅器を複数個使用する必要がないから、ビックアップ部の構成が複雑化するという従来技術の欠点を除き、高品質の映像信号を再生すると共にトランシング誤差検出装置を提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明によるトランシング誤差検出装置の一実施例を示すブロック図、第 2 図は同じく本発明の他の実施例を示すブロック図、第 3 図は第 1 図に示した実施例の一変形例を示す電極配

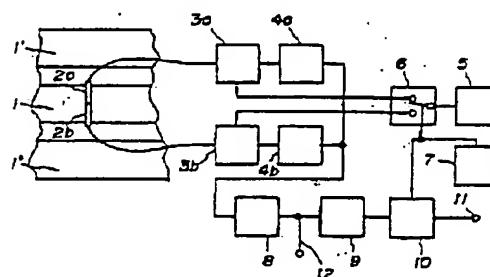
13

図である。

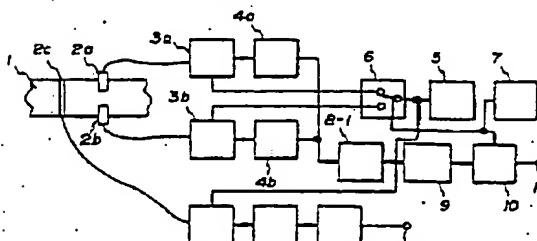
1 ……記録トラック、2a, 2b, 2c ……電極、
3a, 3b, 3c ……共振器、4a, 4b, 4c ……
包絡探査波器、5 ……高周波発振器、6 ……切換
回路、7 ……切換信号発生器、8 ……前置増幅器、
9 ……包絡探査波器、10 ……同期検波器、11
…トランシング誤差信号出力端子、12 ……映
像信号出力端子

代理人弁理士 武田次郎(ばが1名)

第 1 図



第 2 図



第 3 図

